

吉本そうぞう 吉本 草蔵

訪問看護師／気候変動を考える市民の会・高槻

気候危機の時代。台風の巨大化により、高槻の山林も甚大な被害を受けた。私たちは循環型社会にシフトして、大地の再生や自然の回復を助ける。食糧危機や、エネルギーショックを乗り越えるために、防災としての食料や電力の自給が必要だ。この厳しい時代を、助け合って生きていくために、その中心に「みんなの自治」がある。

私は、難民支援の中で、アフガニスタンの干ばつの中で奪い合う姿も、助け合う姿にも出会った。訪問看護の中で、様々な家族と出会い、社会の底辺から人と生命を見つめている。毎日の暮らしの中にこそ民主主義がある。一人一人の中に在るパワーや良心を少しずつ分かち合い、交流しよう。そして、一緒に考え、行動しよう。

手を取り合った人々は、困難を乗り越えられる。そして、みんなで生きていこう。

1981年大阪市生まれ。同志社大学文学部文化学科心理学専攻、公認心理師。貧困問題解決のために国際債務取り消し運動に参加。アジア通貨危機後のタイの農村での地域通貨の取材、アフガニスタンの村での虐殺の聞き取り調査、オーストラリアの農場での季節労働を経て、大阪市立大学看護学科に編入し看護師・保健師免許取得後、大阪市立大学病院神経精神科で勤務。

2014年に、高槻市に移り住み、訪問看護師として勤務。3児の父として、みんなが生き残れる安心・安全な世界を作るために、地域の何でも屋を目指す。

趣味：家庭菜園、サッカー、市民林業士の活動、オープンダイアログ。

吉本そうぞう連絡先

電話 080-5631-7182

Eメール imagine4earth@gmail.com



脱成長し、地域の豊かな循環へ

大きく時代が変わろうとする中、
みんなで生きていくために大切なものを守りたい。

すえおか友行 末岡 友行

2021年島本町長選挙立候補者／高校教諭

ライフワークとしてきた教育の仕事で出会う子供達が生き生きと育ち、多様性とそれぞれの表現が尊重されてほしい。そして次世代が数十年後もこのまちがよかったと愛着が持てる島本・高槻にしていきたい。

地元で大切にされてきた農地や森林、保育園、学校、景観などを一時的な税収のために取り壊すのではなく、みんなで知恵を絞り残し、まちの魅力として活かしていく。

時代遅れの開発にお金をかけるのではなく、ひとり、ひとりの日々の生活や文化が豊かになるために役割を果たしたい。

身近に農や森が維持できる環境が整備され、水辺で安心して暮らすことができる緑と水のまちへ。活動の中で多くのおみなさんと出会えることを楽しみにしています。

1982年大分市生まれ。京都大学農学部卒業、京都大学農学研究所修士課程修了。メキシコ・グアダハラハラ大学に1年間留学。国際NGOの京都グループ事務局長として、グローバリゼーションと地方自治、食と農に関わる企画を多数行う。京都西山高校、立命館守山高校、関西学院千里国際などで理科教諭として働きながら、身近な学びの場を開く。

2014年パートナーの地元・北摂に移り住み、季節ごとの色合いを見せてくれる田畑や山が身近にある環境の素晴らしさを感じる。島本駅前の農地の大規模開発見直し等を求め住民活動を行い、2021年4月、島本町長選挙に立候補する。

趣味：ハイキング、家庭菜園、地域で理科講座、ラップ(音楽)

すえおか友行連絡先

電話 090-1222-5358

Eメール sueoka.tomoyuki40@gmail.com



応援カンパの募集

「みんなで生きていく島本・高槻」では、高槻市政に挑戦する吉本そうぞう、大阪府政に挑戦するすえおか友行を応援しています。活動に賛同して下さる方は、よろしければ寄付をお願いします。※5万円以上をお振り込み予定の方は、必ず事前にご連絡ください。

銀行口座での振込みの場合
りそな銀行 高槻富田支店(442)
普通口座 1566409
ミンナデイキテイクシマモトタカツキ

みんなで生きていく 島本・高槻

住民との対話からはじめるシステムチェンジ。

食料、エネルギー、ケアを自給して、みんなで生きていく。

このまちから世界中の持続可能な社会とつながり、平和を実現する。

農地、森林、空き家、公共施設、お店、

自然や地元にある大切な場所が代謝し、循環が生み出される。

安心できる居場所があり、一人ひとりの思いが尊重される

自治のまちをみんなでつくる。

吉本 そうぞう

4.23

高槻市長選挙 高槻市議会議員選挙投票日

すえおか 友行

4.9

大阪府議会議員選挙 大阪府知事選挙投票日



Home page

Twitter

Facebook

LINE

10の提案



あなたの大切な声(意見や気持ち)を聞かせてください。
ホームページで取り上げていきます。

みんなで生きていく島本・高槻 お問い合わせ <https://minaiki.space/contact/>

思いが伝えられる、声をかける、対話する。
この厳しい時代を助け合っていっていくために
その中心に「みんなの自治」がある。
そして、次世代が数十年後も
このまちが良かったと愛着が持てる
島本・高槻にしていきたい。

1 脱集中・脱成長 = システムチェンジ

System change

コミュニティごとに対話の場を設け、地域の将来像を描く。

「萩之庄JR新駅」の開発計画は全て公開し、幅広い市民・当事者と対話を始める。東京ドーム8個分(約38ha)の農地・住宅を数千人規模の市街地にする計画は見直す。

これからも使っていける「赤大路小学校・第4中学校」は、壊し統合し大規模校を建設するのではなく、広く当事者と地域教育を考える集まりをひらく。

交通量の増大と物流倉庫の乱立を招く、枚方第2大橋(前島-牧野間)の建設を見直す。



すえおか友行

大型開発の流れを変え、
緑と水のまちを目指す。



2 自治 = デモクラシー

Democracy

子ども、高齢者、女性、男性、国籍・出身、生活状況など、さまざまな違いをもつ一人ひとりが本来公平であるという理念が実現するよう、共に考え続けながら自治に取り組む。

住民同士が繋がりプロジェクトを企画できる、デジタルプラットフォームをつくる。高槻市では、3万人アンケートを実施し市政に反映。

地域住民が自由に用途を決められる参加型予算枠をつくる。

3 地域で住む・育てる = ケア

Care

十分な在宅医療や福祉の実現のため、地域の医療・福祉関係者や患者をはじめ市民による「医療・福祉改善会議」をひらく。

医療・福祉・子育て職の増員と均等待遇を実現。生活困難者・障害者・高齢者・子どもたちがゆとりを持って暮らせるように。

助けを求められるネットワークや、安心できる居場所をつくる。多国籍住民の生活・地域との交流の場づくりを支援する。

増え続ける空き家を活用支援：住居(グループホーム・住宅確保困難者)、こどもの場(共同保育・フリースクール、学習支援・放課後クラブ)、地域(図書室・子ども/だれでも食堂、コミュニティスペース)などへ活用。

4 教育 = コモン

Common

大人や子どもたちが、地元の環境(里山、農地、川、自然)・歴史・地理を活かした体験型学習や、自分の手で行う循環型の生活技術を学ぶことができる「市民大学」をつくる。

24人程度のクラス編成を行い、理不尽な校則の廃止などを定めたこどもの権利条例をつくる。

公立フリースクールの創設。現在の夜間部だけでなく午前・午後も含めた3部制の「単位制高校(クリエイティブスクール)」を誘致。



吉本そうぞう
気候危機に取り組み
平和を実現する。

8 緑の防災 = グリーンインフラ

Green-infra

地下水を利用する企業と共同し、水源維持のための基金制度を新設。地下水を生み出し水害を防ぐ、農地・森林を増やす。

高槻市の面積の約半分を占める森林。2018年の台風21号の被害を受けた森林の継続的な復旧と、住民参加のどんぐりの植樹活動を行う。

9 都市農園 = アーバンガーデニング

Urban-gardening

各地域に市民農園・コミュニティ農園、学校体験農園を増やし、農地保全と地域内自給率の向上を行う。

果樹などを街路や公園に植樹し、都市に「食べられる森」をつくる。

保育園と学校の給食の無料化と減農薬の地元食材の積極的活用による地産地消を推進する。

5 移動 = モビリティ

Mobility

市バスの増便、小回りのきくコミュニティ交通の導入を行う。より様々な立場の人が使いやすい料金体系に。

自転車の駐輪の無料化。駅前の駐車場を転用して駐輪場を確保。



自家用車による個人の移動を減らせるよう、カーシェアや乗合いを促進。

6 循環 = ゼロ・ウェイスト

Zero Waste

生ゴミ・落ち葉や庭木・竹パ
ウダーを堆肥化して農地に活
用、ゴミの減量化。

各家庭・マンション、協同組合の再
生可能エネルギー発電事業を支援
し、分散型の送電網を実現する。

多品目の分別回収や中古品の修理、不用品・フードロス食品の譲渡などを住民が行える「地域循環センター」を各地に設置。

7 補修 = リペア

Repair

公共施設の統廃合でなく、既存施設を補修して長寿命化し、公共施設を減らさず活用する。

農業水路、生活道路、水道管などの整備・補修とコミュニティの課題解決への支援を行う。



10 めぐる発酵経済 = サステナブル

Sustainable

地域通貨などを活用して、地域内でお金や人の働きが循環する仕組みづくりを。

地域の仕事をつくりだす「社会的事業体」を増やし、制度によらない広義の福祉を実現する。行政の外部企業への委託事業を転換。

家の近くで歩いて買い物ができるまちのお店への支援。

